琵琶湖博物館協議会議令和2年度第2回会議（書面開催）にかかる意見等について

項目	委員	意見・質問・提案等	回答・対応等	担当
【議題1】中長期基本計画について				
キャッチフレーズについて	委員のみなさん	委員のみなさんから次のようなフレーズの提案をいただきました ・湖の恵みと共生し、博物館と対話しよう！！ ・過去から未来へ。私たちの道標「琵琶湖」 ・叡智の湖(うみ)へ、びわ博と漕ぎ出そう ・家 demo 博物館 ・外 demo 博物館 ・もっと身近に感じられる博物館へ ・さらに身近な博物館へ ・離れていても近い博物館に ・博物館とのココロの距離を縮めよう ・すぐそばに感じられる博物館へ ・キモチ近づく博物館へ ・ココロでつながる博物館へ ・365 日 24 時間アクセスできる博物館 ・思い立った瞬間、その場でのぞける博物館 ・出あい、学びあい、世界へ発信する博物館へ ・人々が行き交う博物館から世界へ発信！ ・世界のびわ湖のせかい このほか、コメントとして「「世界に誇れる琵琶湖」の表現やニュアンスを入れるとよいという提案がありました。 また、前回（第１回）の委員会では「世界の琵琶湖になろう」という提案がありました。	新しい中長期基本計画の考え方や、これまでの当館の活動に沿ってたくさんのご提案をいただいたことに感謝します。ご提案いただいたフレーズの背後にある考え方なども参考に館内で協議の結果、「どんな博物館（活動）を目指すのか」をわかりやすく伝えるフレーズということで、いくつかの要素を組み合わせ、次のようにしました。 出あい、学びあい、琵琶湖を世界に発信する博物館へ 前回の案では日常的に使える点を強調していましたが、今回は一緒にやるということと世界へ発信という要素の方を採用した形となりました。	企画調整課
第三次中長期計画全般について	村上	事業目標1～6に分けて、琵琶湖博物館に求められている各方面の事業について今後の方向性が十分に示されている。しかし、すべてに対して同程度の重点を置いて事業を進めていくことは実際問題として難しい。重点目標の補足説明のなかでは、最初の目標として研究活動が取り上げられており、6つの目標のなかでもとくに研究の推進に優先順位を高く設定すべきだという館全体としての意識を窺うことができ、評価できる。 ただ、現段階では課題は明示できたものの、重点事業の中身がやや漠然としている箇所がみられる。今後、事業を進めていくなかで、たとえば重点事業1-2の発信について、「インターネットでの発信」をどのように具現化していくか、ソフト面（発信を担う人材）とハード面（データ集積のための設備等）の双方にわたってさらに詳細な計画が整備されることを望みたい。	詳細な計画については、今後中長期基本計画を策定後に作成する「行動計画」において、進めていく予定です。	企画調整課
本文1－3 社会状況と博物館の課題	荒井	（1）社会状況 ●観光と博物館 （提案）国の諸策により博物館には観光拠点としての期待が高まっていて、また今回の体験型の博物館としてリニューアルされたことにより、ますます来館者の増加が予想されます。また、その一方で、湖周道路の整備が進み、今後、国内外からも「ビワイチ」を楽しむ人が増えることも予想され、サポートステーションとしての琵琶博としては絶好のチャンスであり、「琵琶湖博物館から琵琶湖へ！」と呼びかけ、琵琶湖の事を知ってからフィールドである琵琶湖を楽しんでもらうことを提案して頂ければと思います。	当館の基本理念である「フィールドへの誘い」は、博物館を見学したら終わりではなく、実際に現場に出かけ、さまざまなことを感じたり学んだりして湖と人間の共存について考えよう、ということを謳っています。琵琶湖を巡る中で当館を訪れより深く理解する、あるいは当館で琵琶湖のことを知ってから新たな視線で琵琶湖を巡るという流れが作り出せるように努めていきたいと考えています。	広報営業課
1－3 社会状況と博物館の課題	荒井	（2）琵琶湖博物館の課題 ●持続可能な社会への取り組みを支える交流事業の活性化 「地域の人々とともに化石の発掘や生物分布の調査を行うなど、地域の人々自らが研究する活動にも貢献してきました。このような形での貢献は今後とも交流事業の重要な柱として進めていく必要があります」と記されています。 （感想）私ごとですが、博物館の準備室時代に、住民参加型の生物調査に参加し、地域のフィールドに深く関わる事によって、今もなお調査・活動が持続できているのは、入り口である博物館の学芸員の先生から多くの事を学び、「地域だれでも・どこでも博物館」としての礎を築いてくださったからだと言えます。そして、「博物館の木から地域の森へ」と成長できた背景には、調べた成果が展示室で展示されたこと、また地域での活動が「新空間」で展示発表の機会を頂いたことなど、博物館とのつながりがあったことが支えになっています。博物館とつながりを持つことによって、フィールドである地域で活動の輪を広げているグループも今では増えてきていると思いますが、今後もこれまでと同様に「博物館で育まれ、地域を育くむ人材づくり」を大切に、交流活動が持続されていくことを強く望みます。 （提案）博物館では、フィールドレポーターの方たちが調査され貴重な資料ができ実績を積んでこられましたが、調査に関しては、より幅広い年齢層にも広げ、とりわけ中・高・大学生等の若い世代（部活参加者等）に、春休み・夏休み等を利用して身近な調査を呼びかけ、その成果を発表する場として琵琶湖博物館に集まり、発表・展示等をして、そのつながりを大事に育てて頂けたらと期待しています。	これまでの様々な経験を示していただき、ありがとうございます。それを励みに、今後も地域の人材づくりに貢献していきたいと考えています。 一緒に調査や活動をする人々の年齢層の拡大は重要な課題です。特に学生や若い世代を対象とした取り組みが必要ですが、これまでの取り組みとしては地域の自然と文化を研究するティーンエイジャーを集めての研究発表会や交流会を行なう、はしかけ「琵琶湖梁山泊」、中学・高校・大学で活動するグループを一堂に集め、互いの活動を紹介する環境学習センターの「びわ博学生ミーティング」などがあります。今後はインターネットを活用することで若い世代が参加しやすい方法を構築するなどの工夫を進めていきたいと考えています。 また、社会の幅広い人々を対象にする取り組みも進めており、トンボの保全を目的に活動する企業のグループ「生物多様性びわ湖ネットワーク」の活動成果を紹介するギャラリー展示「トンボ100大作戦」のがその例となります。こうした活動も進めていきたいと考えています。	交流係・展示係・環境学習センター
事業目標1	中坊	これは特別展あるいは企画展が関係してくると思います。協議会でいつも特別展を拝見していますが、ここしばらく少しインパクトが弱い展示が続いていると思います。特別展というのはアイデアに苦労します。しかし、常設展だけでは来館者に「琵琶湖」を理解してもらうのは十分ではないと思います。が、いい特別展を拝見させていただきたく、学芸員の方々の苦労は十分に承知していますが、少し辛口のコメントを申し上げました。期待しています。	ご期待に沿えるよう頑張りたいと思います。	展示係
事業目標1 重点事業1-1	鹿田	重点事業1－1にあるように、世界有数の古代湖としての琵琶湖、としての発信（琵琶湖そのものだけでなく私たちも含む）という視点が良いと感じた。 更に、過去～現在の湖の研究にとどまらず「未来」の環境に対する警鐘や大切な視点などもアピールし、今～未来を生きるヒントとなるような研究の成果の見せ方があればいいと思った。	さらに、刻々と変化する現在の古代湖の研究だけでなく、未来に向けたよりよい関係のあり方などの研究を進めます。	研究部・広報営業課
事業目標1（重点事業1-1,1-2）	荒井	（提案）古代湖を持つ国々との交流を深め価値を再認識し、変化していく湖の状況を共有化し共同研究を深めていく。情報は水族等の常設展示やインターネット配信するなど新しい情報を提供していく。また琵琶湖博物館が核となり、国内における湖の研究を連携して湖沼サミット等を開くなど人々の湖への関心を呼び起こすことを期待しています。	具体的なご提案をどうもありがとうございます。古代湖を持つ国々との交流や、国内の湖沼研究機関等との連携については、具体的にどのようなことを行っていくのか、今後策定する行動計画の中で、検討していきたいと思います。	研究部

項目	委員	意見・質問・提案等	回答・対応等	担当
事業目標2	山西	重点目標2および重点事業2-1～2-3には資料の「収集」という言葉がまったく見当たりません。しかし、博物館法第2条の冒頭にあるように、資料の収集は博物館にとって出発点であり、根幹をなす事業です。琵琶湖博物館でも資料は単に研究活動の一環としてだけでなく、市民からの寄贈の受入れや交流活動を通じて入手する場合、あるいは購入する場合など、さまざまな経路で収集されています。館として、何のために、どのような対象、範囲の資料を、どのような手段、基準で収集するのかといった資料収集の方針を明示し、能動的な姿勢を示しておくことが必要で、「収集」に関する記述がないことにかなりの違和感を覚えます。資料の継承・保管および利用については丁寧に記述されているので、蓄積されたさまざまな資料・情報を社会にどのように役立てるかを含めた琵琶湖博としてのコレクションポリシーの策定を今後の課題とされてはいかがでしょうか？	当館では「滋賀県立琵琶湖博物館資料整備に関する基本方針」を策定し、資料収集を進めているところです。ご指摘に沿って、重点目標2の説明のところにこのことについて追記し、次のような記述にしました。 琵琶湖博物館では、琵琶湖やその地域に関連した多様な分野で、将来的に継続して残すべき資料を『滋賀県立琵琶湖博物館資料整備に関する基本方針』に従って、収集から整理、保管、利用まで一貫して資料整備を行っています。特に収集は、研究調査・展示等の活動に伴う収集を基本に、専門家、関係機関、地域の人々と協力を計りながら日々充実させています。 これまでに、 琵琶湖博物館には、国の登録有形民俗文化財である漁具・船大工道具をはじめ、過去から現在に至る地層・化石・動物・植物・微小動物など、琵琶湖の自然や人々の暮らしの価値を発見するための貴重な標本・資料を収蔵しています。これらを適切に整理・保管して、数十年、百年先の将来にも活用できるようにするとともに、現在の人々が日常生活の中でも利用できる方法を開発します。	資料活用係
事業目標2	中坊	資料・標本について、です。私はこれらの重要性を十分に知っており、また、収蔵の状態も知っています。しかし、資料・標本について、協議会委員の方々のほとんどは全く知らない方が多いと思います。一度、委員に収蔵室の見学会を開かれてはいかがでしょうか。実際に見ると適切な意見が出てくるかもしれません。百聞は一見に如かず、です。	次回、収蔵庫見学を実施したいと思います。	資料活用係
事業目標2 重点事業2-2	遠藤	標本・資料に関しては、素人でそれほど詳しくは分かっていませんが、「琵琶湖博物館」のホームページを拝見して、「収蔵品データベース」のところに入って見ましたが、初めての人でも興味が深められるような写真やわかりやすい表現があるとありがたいと思いました。（利用促進につながると感じました）	いただいた意見を参考に「収蔵品データベース」の充実を図っていきたいと思います。	資料活用係
事業目標2 重点事業2-2	岡田	追いついていない収蔵資料の整理は、一般の者でもサポート可能なのでしょうか？「博物館のお仕事体験」のような形で整理の様子を見たり手伝ったりできたらと思います。 博物館→整理がはかどり、助かる（？） 参加者→琵琶湖や博物館の仕事への興味や理解が深まる。	ご提案の件については、現在、「はしかけ」活動の中でも県民とともに資料整理を進めているところです。	資料活用係
事業目標2 重点事業2-3	鹿田	資料をどこからでも使えるように整備 私自身研究家ではないので単なる感想ではあるが、世界に対してどんな細かな研究成果・収集物などにアクセスできることは大切だと考えた。ICTもぜひ進めてほしい。（アクセスへのバリアをできるだけ取り除くため）	「収蔵品データベース」の充実を図っていきたいと思います。	資料活用係
事業目標2 重点事業2-3	山﨑	琵琶湖岸や湖中、琵琶湖八景を望む場所などに定点カメラを設置し、リアルタイムで琵琶湖の現在の様子が博物館で見られるようにしてはどうでしょうか。	現在、バイカル湖のリアルタイム映像を展示室で流しておりますが、琵琶湖についてもリアルタイム映像が流せるようにすると面白いと思います。ただし、カメラの設置およびメンテナンスに人手と経費が必要ですので、今後の検討課題としたく思います。	展示係・企画調整課
事業目標3 重点事業3-1	遠藤	「事業目標3　みんなで学びあう博物館へ」の全体に関して。 現在記載の内容自体には特に異論はありませんが、それは、あくまでもコロナ禍が終息し、いつも通りに人が集うことができる場合での話です。しかし、現在のコロナ禍の状況では、今後の「人が集う」企画自体の見直し、もしくは「ポストコロナ禍を見据えて」の対応策や表現があってもいいように思います。	重点事業３－１の後半に書かれているICTを活用した交流プログラムの提供はコロナ禍やその後の社会を念頭に置いたものです。ただし、そのことがわかりにくくなっていましたので、次のように書き変えました。 「ICTを利用した交流プログラムを開発し、コロナ禍の渦中はもとより収束後の社会においても、家庭や学校・企業等の現場でいつでも博物館の交流メニューが使えるようにします。」 また。この方針を受けて、来年度の行事のいくつかでは「オンライン観察会」など、集まらない行事を試験的に行う予定にしています。３－２の出会いの場に関しても、人が集まれない場合を想定した運営方法を検討します。	交流係・企画調整課
事業目標3	田渕	（交流事業） ・具体的にどういった交流でしょうか？	当館では講座や観察会など、他館では「普及」事業と呼ばれるものについても、一方的な教えるのではなく実施者と参加者が相互に学びあうを交換し合う「交流」事業として位置づけてきました。本中長期計画の事業目標3はそれを改めて明確にするとともに、より多くの人に参加を促すことを謳っています。	交流係
事業目標3 重点事業3-1	龍見	セミナーなどの開催に関して。子供向けの企画などを増やし、定期的に日時を設定し、セミナーを行ってはどうだろうか。例えば、人と自然の博物館で毎月行われているひとはくKidsサンデーのように、一日に複数のイベントを開催し、フロアスタッフや、学芸員、学生スタッフなどが協力し、毎月定期的に開催していけないだろうか。滋賀県立大学の学芸員課程受講者や、近江楽座である地域博物館プロジェクト、滋賀県大生き物研究会などと連携し、イベントを開催することも可能かと思う。他機関とうまく連携しながら、セミナー等を増やしていってほしい。	他機関等との連係でセミナー等を充実させていくというのは、まさに重点事業の３－１の趣旨にあてはまります。いただいた提案は行動計画を作り、実行していく中で参考にさせていただきます。 当館はこれまでもさまざまな団体や人と連携をしており、来年度も企画展示を始め、そうした行事が複数予定されています。今後はそれらを体系的・持続的なものにしていくことが課題と考えています。	交流係
事業目標3 重点事業3-1	池田	事業目標3「みんなで学びあう博物館」の関連で、例えば県内すべての小学生が体験する「うみのこ」のように、社会科見学で全員に訪れてもらったり、地元の企業などに研修に組み込んでもらったりして、訪れた人には認定証のようなものを発行する。例えば2回訪れると「係長」、3回目で「課長」といったような称号を贈るなど、琵琶湖に詳しくなることが誇らしく感じられるような仕組みをつくり、リピーターを増やす。	より人びとの興味を引くための方法として参考にさせていただきます。	交流係・広報営業課
事業目標3 重点目標3-2	池田	さまざまな分野の人をパネリストとして招くシンポジウムを毎年開いてはどうか。一見、関連がなさそうなテーマを設けつつ、人と環境、琵琶湖の恵みなどについて議論を展開。それを発信することで、多種多様な人や企業・団体を巻き込み、目標5にある認知度の向上にもつながるのでは。	これまで企画展関連シンポジウムなどさまざま分野の人を招いてのシンポジウムを実施してきました。来年度は25周年に関連したシンポジウムを計画しています。今後もさまざまな分野の人が議論し、新たな価値を創造する場を作っていければと考えています。	企画調整課・交流係、研究部

項目	委員	意見・質問・提案等	回答・対応等	担当
事業目標3 重点目標3-2	荒井	（感想）博物館の企画展示室で、10年以上前に、琵琶湖のまわりで活動している環境・生きもの（他にもあったと思います）のグループの活動を紹介するポスター展示が行われました。印象に残ったグループへ、活動に対してのエールを付箋に書き展示物に貼っていくという企画でしたが、参加した私たちのグループにとっては、頂いた多くのコメントに励まされ勇気づけられ、久しぶりの出会いもあり、学びの多い素晴らしい集いであったと思います。 また、20周年記念企画展示「びわ博カルタ」にも展示に参加し、発見したことや未来の活動について考える時間を頂いたことは、次の活動のステップとなり、あらためて、博物館とのつながりに感謝しました。 （提案）開館して25年、博物館で生まれたはしかけ・フィールドレポーター等で活動している人々も増えています。「びわフェス」は、活動する人たち同士の出会いの場であり、来館者との楽しくいきいきと活躍できる場であることから、交流事業の一環として、これからもぜひ続けてほしいと願いますが、当日は、はしかけ同士の交流の時間が持ちにくく、またグループも増えたこともあるので、今後、はしかけ・フィールドレポーター等が一堂に会して、活動紹介を兼ねた「楽しむ交流会」があればいいのではないでしょうか？	従来の「びわ博フェス」では、活動する人たち同士が交流する機会がほとんどありませんでしたので、新しい計画の元ではそうした機能を果たせるように運営方法を考えていきたいと考えています。	交流係
事業目標3 重点目標3-2	中坊	これは「出会いの場」に期待したいと思います。	ありがとうございます。	交流係
事業目標3 重点事業3-3	鹿田	滋賀・琵琶湖にかかわる住民として、ぜひ琵琶湖にかかわる学びに知らず知らずのうちに触れているような県民性？であってほしい。 例えば広島や沖縄が、戦争体験を必ず学びずっと身近に感じるように・・・。 そのための仕掛けとして例えば3－3にある「教員への支援」はとても大切だと考える。 学びに接するタイミングも、幼少期～小学生と、それ以降で波状攻撃のように何度でも触れる中でより深まったり、興味を持ち続ける子を増やすことになると考える。	3－3の趣旨への賛同、ありがとうございます。何度も繰り返し、というところで学校の先生方がとても重要な役割を担うと考えています。現在でも「うみのこ」の事前学習で訪れた学校と乗船中のWeb通信による講話を行ったり、先生方の事前の研修を行い船上での指導にも生かしていただいています。こうした活動を今後も発展させ、子どもたちだけでなく教員の方々も同じく学べる博物館でありたいと考えています。	交流係
事業目標3 重点事業3-3	古川	学校団体の利便性を高め、子どもたちが琵琶湖の自然や人々の生活について学べる環境の充実を図ってほしい。そのためには、博物館の取り組みを広く周知するための広報活動に力を入れながら、現場の教員にも博物館を利用することの有効性や魅力をアピールすることが大切ではないかと思う。	学校への働きかけとしては、県内および京阪神（淀川流域）の各学校を訪問し、来館を促す取り組みを進めています。また、有効性を感じてもらうため、学校の教職員向けのプログラムを作成するとともに、教職員研修を通じて博物館の使い方やプログラムの活用法などの普及を図っています。中長期基本計画の3-3ではこれらの活動を継続的に推進しようとするものです。	広報営業課・ 交流係
事業目標3 重点事業3-3	山﨑	夏休みに、児童生徒の研究の助けとなる講座や質問教室などを、重点的に実施してはどうでしょうか。子どもたちの琵琶湖や環境に関する意識を育むとともに、専門的な立場からの助言が、科学的思考を高めることにつながると思います。	プログラムの案として、今後の計画づくりの参考にさせていただきます。実は、夏休み向けの講座や相談室は過去にも実施していたのですが、一部を除いてあまり人気がなく、継続しなかったという経緯があります。また、相談についても、夏休みの初めに利用したい人、まとめに利用したい人など、人によって利用したいタイミングがさまざまであることから、毎日やっている質問コーナーでの対応に収斂したということもあります。新しいプログラムを考えていく際には、これらの課題を解決していく必要があると考えています。	交流係
事業目標4 重点事業4－1	田渕	ソフト面の充実はハード面より難しい面があると思いますので計画的なおかつ急務だと思います。	おっしゃるとおりだと思います。ソフト面については、職員や展示交流員の研修などを計画的に進めていきたいと思います。	展示係
事業目標4 重点事業4－1	中坊	「観る＋使う」展示ですね。あるいは「触る」展示も加えるのでしょうか。ハンズオンと言われますが、工夫次第で子供たちの理解を深めることが出来ると思います。期待したいですね。	ハンズオンの原義である「実地の」あるいは「利用者の能動的な」取り組みができる展示（またはプログラム）として発展させていきたいと思います。同時に、さまざまな人が出合うために「使う」という意味も込めています。	展示係
事業目標4(重点事業4-1誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長)	遠藤	重点事業4-1の中の表現に、ユニバーサルデザインの基本は・・・との表現がありますが、けして間違いではないのですが、基本はと表現するのであれば、以下の7原則からの引用が必要かと思います。おそらく、この文面で、伝えたいことは「運営も含めて日々改善を行っていく」に力点があるかと思いますが、そのはじめの「作ったら終わりでなく」の表現が気になります。 私見ですが、 1案：ユニバーサルデザインの考えに、作ったら終わりではなく、運営も含めて日々改善を行っていくことにあります。 2案：ユニバーサルデザインの基本原則の中に、「使う上で柔軟性があること」があります。 （参考資料） ユニバーサルデザインは、「あらゆる人に利用しやすいデザインである」という視点を軸に、下記7原則から構成されています。 1.誰にでも使えること。（Equitable Use） 2.使う上で柔軟性があること。（Flexibility in Use） 3.使い方が簡単で、直感的にわかること。（Simple and Intuitive Use） 4.必要な情報がすぐにわかること。（Perceptible Information） 5.簡単なミスが危険に繋がらないこと。（Tolerance for Error） 6.身体的な負担が少ないこと。（Low Physical Effort） 7.アクセス・利用しやすい十分なスペースが確保されていること。（Size and Space for Approach and Use）	おっしゃるとおり「運営も含めて日々改善を行っていく」に力点があり、「作ったら終わりではなく」はハード整備だけではないという意味です。ハードウェアではカバーしきれない部分があり、観覧プログラム開発など、ソフト面での開発も必要という考え方に基づいています。ご提案では7原則を引用するとよいとのことでしたが、7原則はどうしても「モノ（または空間）」の特性を示しているように見えてしまうため、ちょっと引用しずらい面があります。 そこで提案いただいた1案を参考にしつつ、「ユニバーサルデザインの基本」という曖昧な言い方を避けて、次のような記述に変更しました。「 「運営も含めて常に点検・改善を行うとともに、展示ガイドの追加、観覧プログラムの作成など、障害者も含めさまざまな人に合わせた展示の使い方の開発・改善を進めます。」 この文ではユニバーサルデザインという言葉を使っていませんが、記述全体がその基本的精神と、計画としてのやるべきことの方向性を十分示しているかと思います。	展示係

項目	委員	意見・質問・提案等	回答・対応等	担当
事業目標4 重点事業4-3	荒井	（提案）展示の更新は、博物館が停滞することなく、進化していく博物館として重要な位置づけにあると思いますが、研究者である学芸員の先生方にとっても、最前線の研究の成果として更新し発信していく良い機会になると思われます。そして、新しく発見された生きものや化石、文化財等の情報を、今回設けられた各展示室の交流コーナー等を利用するなどして、新たな情報を素早く提供していってほしいと願います。 さて、5年生で体験するフローティングスクール「うみのこ」の展示は、工夫をこらして常設展示になったことは、おおいに評価される展示となっていますが、それと合わせて、4年生が体験する「やまのこ」事業の紹介があってもいいのではないでしょうか？県下数か所で行われている「やまのこ」は滋賀の多くの子どもたちが参加し、山と湖の県としてはぜひ、とりあげていただきたいと思います。限られたスペースの中ではあると思いますが、例えば、C展示室で「やまのこ」で体験する子どもたちの様子を紹介するポスター展示や手作り作品などを展示していただけたらと思います。「昔のくらし」で来館する3年生の子どもたちや先生方にとっては、つながりを感じてもられる良い機会ではないでしょうか？	C展示室の交流スポットの活用についての提案ありがとうございます。具体例として挙げられた「やまのこ」なども、C展示室の森川コーナーのスポットの活用を検討したいと考えます。	展示係
事業目標4 重点事業4-3	山西	重点事業4-3において「最新の研究や資料収集の成果は企画展によって紹介する」とあります。その通りですが、年間の行事の中でも企画展の実施は大きなウェイトを占めています。中長期的な視野での方針、方向性に関する記述がないのは物足りない。	事業目標4は、常設展示に重点をおいた内容になっていましたが、目標から「常設」の文字を削除して企画展等も含めた内容に変更するとともに、重点事業４－３において最新の研究成果を示すものとして位置付ける旨の記述を追記しました。 なお、当館では開館当初から企画展示を研究発信の場として位置づけ、研究の進展状況を鑑みながら、むこう5年くらいの計画を立てて進めています。ただし、その詳細について記すと計画として冗長になることから内容については割愛しています。これは参考にした国立科学博物館や大阪市博物館機構の中期計画でも同様でした。	展示係
事業目標5 重点事業５－１	鹿田	ホームページにAI案内人など設けて、興味・知識のレベルに応じた情報への誘導などに力を入れてはどうか。	ホームページ等の技術はこれからも発展していくと思いますので、それらを勘案しながらさまざまな技術を取り入れていきたいと思います。	企画調整課
事業目標5 重点事業５－１	龍見	5-1 ICTを活用した琵琶湖博物館の紹介 FacebookやTwitter、InstagramなどのSNSを効果的に活用しながら情報発信を行ってほしい。もちろん、できるときのみで良いのだが、曜日を決めて、例えば火曜日には収蔵品の一部を紹介したり(データベースがあれば、リンクを貼るのが効果的だろう)、金曜日は子供向けになぞなぞ形式で、展示品やフィールドの豆知識などを紹介し、翌土曜日に答えを発表したりしてはどうだろうか。さらに、展示ツアーと題し、学芸員が各担当エリアの展示を解説しながらLIVE配信することで、その場で視聴する参加者の声が聴ける。人数を限定し、有料で配信することもできるし、無料で大勢に向けて配信することもできる。ツアーを行うことで、展示を見に行けない人でも博物館に居る気分になれるし、すでに訪問したことがある人に向けても、展示に込められている意味や展示品の価値などを伝えることができよいと感じる。各SNSの投稿ごとに、ターゲットを絞り、もう一歩踏み込んだ発信してみてはどうだろうか。	来年度からの行動計画の中で参考にさせていただきます。 現在、さまざまな博物館や美術館のインターネットを活用した情報発信の事例を収集しているところです。その中には、収蔵品紹介や展示ツアーなど、ご提案いただいたようなことをすでに始めている事例がありますので、今後はそれらを参考に色々考えていきたいと考えています。	広報営業課・資料活用係・展示係
事業目標6	遠藤	「マザーレイク」の言葉に意味が込められてる通りで、琵琶湖は滋賀県にとって、命の源であり、財産であり、宝です。これを見つめ、研究し、その価値をPRしていく博物館の意義は非常に大きいと思います。予算計上のところでも、他府県の博物館と同じような割合であってはいけないはずです。事業目標6を読んでいて、強いメッセージが伝わってきません。予算が潤沢な状況にある。など見たことがありません。そんな中でもこの博物館を「安定して継続する」ことの意義を県民、とくに議員さんたちに訴える必要があると思います。このような長期計画の中でこそ、強いメッセージでの表現を期待しています。	なぜ博物館の活動を安定して継続する必要があるのかについての記述がなかったので、いただいた文言を参考に、以下のような文言を追記しました。 「琵琶湖は滋賀県にとって、また日本や世界の中においても、ユニークで価値の高い宝物です。これを見つめ、研究し、その価値を発信していくことは、琵琶湖博物館の重要な役割です。」	総務課・企画調整課
【議題2】 その他				
展示	田渕	（もしサポ滋賀について） 設置場所の問題もありますがオール滋賀でまだまだ周知されていないので、少し、声かけが必要だと思いますので、チケットを販売時などにQRコードを読んでもらうように工夫が必要だと思います。	チケット販売時にお客様にQRコードを読み取って手続きをしていただくと、その分時間がかかり、行列ができてしまいますので難しいです。このため、お客様に余裕をもって登録していただけるよう、チケット購入前、購入直後、帰る際の3か所に看板を設置しています。今後は、それらを利用いただくような声がけ等を強化していきます。	展示係
予約について	田渕	電話で相談？予約できるように、取りあえずの対応ではなくぜひ、改善をしていただきたい。障害があるから電話で対応というのはバリアフリーの考え方であり、世界の流れはユニバーサルデザインの考え方です。視覚障害だけでなく夜間にしかアクセスできない方もいると思いますので誰もがアクセスしやすくするという観点を持っていただきたい。	ウェブでの予約の改善は進めております。ただ、外部のサービスを利用している関係もあり、修正には時間がかかりますので、当面の措置として電話対応をしているという状態です。できるだけ早い時期に予約システム自体を改善していきたいと考えています。誰もがアクセスしやすくするという観点を持ちつつ、人員・システム・予算などの工夫に努めていきたいと思います。	企画調整課・総務課
総務	田渕	以前からお願いしていますが、授乳室およびおむつ替えのお部屋について、もう少し考慮していただきたい。イオンモールなどを見るなどして予算がないからではなく、少しずつでも改善していただきたい。おむつを替えるのは赤ちゃんだけではなく、立っちした幼児もするということも念頭に。せめて、奥のブラインドは(折れているので)安全面を考えて取り換えるか、外した方がいいと思われます。お母さんの休憩室でもあると思いますので清潔で安全で、ホッとできる空間にしていただきたい。よろしくお願いします。	授乳室の改善については、以前ご意見をいただいた際に改善をしましたが、その後の状況の変化によるところもあり、ご意見を踏まえて、安全面に配慮しながら、業者と調整するなど少しずつ改善に向けて進めているところです。	総務課